

支部だより

No. 25

愛教研八幡浜支部
責任者 大棟眞由美
印刷 (株)豊予社

耳順の時を 前にして

支部長 関岡 寿登



AI(人
工知能)は
人間の知能
を超えよう
と超えよう

と超えよう。十年程先には、仕事の半数以上がロボットに変わっているという予測もあります。科学技術の発展、特に高度情報化の波は、日々新たなステージに向けて、我々の意識が追いつけないほどの進展を見せています。また、高度情報化は国家間の関係をも変え、グローバル化をもたらしています。ライフスタイルは一新され、画一から個性へと価値観の多様化が進んでいます。さらに、知識社会への移行、少子高齢化、大量退職の時代等、現代は歴史的変動の時を迎えつつあります。それに伴い、教育の現場でも新学習指導要領の改訂を始め、新しい時代に即した新しい教育の波が押し寄せています。その中、昭和三十五年に創立された愛教研も今年で五十七年目を迎えました。孔子の説くところの耳順(じじゅん)

の時が迫っています。

耳順とは、孔子が人生の理想像を説いた「論語」為政第二の第四節の件に出てくる言葉です。「子曰く、吾、十有五にして学に志す」の志学から始まり、三十歳の而立、そして四十歳の不惑、五十歳の知命と続き、六十歳の境地を耳順としています。耳順は「みみしたがう」と読み下し「何を聞いても素直に受け入れることができるようになる」という意味です。つまり、私心に惑わされることなく、真偽を見極めるための正しい心を持つことの大切さを説いていると言えます。それに習い、愛媛教育の中枢に位置する愛教研の活動も孔子のごとく、耳順を前にして継承するものと変革するものとを確かに見極める正しい教育観をもってチャレンジしなければなりません。会員の様々な声を取り入れながら、この変動の時を飛躍の年としたいと思えます。ちなみに孔子は、七十歳を従心(何事にも左右されない心の安定を持つこと)としています。今後の愛教研の歩みが確かなものであったと言えよう、組織の力を最大限に生かしていきましよう。

共に助け合い 共に育む

八幡浜市PTA連合会長

田中 広志



こんにちは。先生方には、子どもたちの健康やかな成長のため、日々ご尽力いただき誠にありがとうございます。この場を借りて、感謝申し上げます。

さて、子どもたちを取り巻く環境は、目まぐるしく変化してきており、大人の我々の方が追いついていないような状況です。PTAとしまして、各方面から情報を取り寄せたり、研修を実施したりと勉強をしております。ただ、そういう時代だからこそ、人と人との関わりや意思疎通が大切なのではないでしょうか。他人の心に寄り添ってみたり、自分の気持ちと向き合ってみたりと。いつの時代も、子育てでは試行錯誤だと思えます。これからの子どもたちは、自分自身で生き抜く力、自立と自律が必要です。今できることを考えて行動し、教職員の皆様、保護者、そして地域の皆様のご協力により、社会全体で子どもたちの成長を見守ることが重要だと考えます。どうぞよろしく願いました。最後にになりましたが、先生方のご健勝とご活躍を祈念申し上げます。ありがとうございます。

事務職員部の活動

事務職員部長

白石 光広

事務職員部は、新規採用者一名を迎え、総勢十六名で活動しています。幅広い年齢構成になっていきますが、それぞれの立場で、日々学校現場でがんばっています。

今年度、まずお知らせしたいことは、昨年十二月、「学校事務の共同実施の在り方に関する指針」が出され、今年度より地域長制がスタートしたことです。地域長(事務長)は、共同実施地域内の業務の取りまとめと、共同事務

室に対しての指導監督を行うことを主な職務とし、また、地域長には、地域内全職員に係る通勤届や住居届に関すること、地域内構成校の旅費予算配分、執行管理に関することなど、いくつかの専決権が与えられています。そのため、地域内すべての構成校への兼務発令がされています。

今年度、事務職員部の活動として、まず既成の「各種手引書」の改訂に取り組んでいます。八幡浜市事務職員部のバイブルである「手引書」は、現状にそぐわない部分が生じており、常に最新の状態で整備できるように、各共同事務室単位で見直し作業を進めていきます。

各部の活動紹介

ぜひご参加を!

福利厚生部長

浮田 孔二

福利厚生部の三大活動は、「ボウリング大会」「懇親会」「いちご狩り」です。特に、「いちご狩り」は大好評で、毎年多くの方々に参加していただいています。

さて、今年度も、恒例の「ボウリング大会」が六月二十三日に行われました。皆さん、好成績を目指し、熱心にプレーしました。どのレーンも笑いや歓声に包まれ、和やかで楽しい時間が流れていきました。参加していただいた皆様、準備等にご協力いただいた部員の皆様、共に会を盛り上げて

いただき、本当にありがとうございました。二ゲーム投げで、合計得点の高かった男女の上位各三名は、八月十一日に行われた「中央ボウリング大会」に出場しました。宮内小学校増池充先生が、個人の部で優勝しました。おめでとうございます。

そして、八月二十一日には、「懇親会」が行われました。今まで接点のなかった先生方ともいろいろ話ができ、とても楽しかったです。さて、年が明けて一月六日には、「いちご狩り」を予定しています。友達・夫婦・家族で参加すれば、「笑顔いっぱい」「おなかいっぱい」になる楽しい活動です。



会員の皆様には、福利厚生部の三大活動に奮ってご参加いただき、交流を深めながら楽しいひとときを過ごしていただくとともに、愛教研への所属意識を高めていただければ幸いです。

宇都宮局長指導のもと、福利厚生部員が全力でお世話させていただきます。

今後、福利厚生部の活動にご理解とご協力をよろしくお願いたします。

みなさま

はじめまして

江戸岡小学校

中井志歩



四月に新規採用で江戸岡小学校に赴任し、二年生の担任をさせていただき

ことになりました。元気いっぱいの子どもたちと、毎日楽しく過ごしています。教師として、何もかもが初めてのことばかりで、どこを向いて歩いても壁にぶつかりへこむ毎日です。そんなとき助けてくださるのは、周りの先生方です。江戸岡小学校の先生方から、毎日多くの

新採教員の声

はじめまして

松蔭小学校

山本莉奈



「社会人になんかなりたくない、ずっと学生のままがいい」と思っていた三月。緊張と不安でいっぱいだった日々。たった数ヶ月前のことなのに、もう随分前のことのように感じます。あつという間に過ぎた数ヶ月でした。

慌ただしい日々ですが、元気いっぱいの子どもたちと、娘のようにかわいがってくくださる優しい先生方のおかげで

学びと刺激をもらい、少しずつ壁を壊しています。うまくいかないこともたくさんありますが、まずは、先生方からいろいろなことを盗んで...、もとい、こっそり学び、真似るといことから始めていきたいです。子どもと過ごす毎日、本当にいろいろなことがあつて、一緒に笑ったり、考えたり、悩んだりしています。その中で、「学校が楽しい。」

「先生、分かったよ。」という子どもたちの声が励みであり、今の私のリポ〇タンDです。「いつでも、どこでも、誰からでも学ぶ」ということを大切に、子どもたちのために努力し続ける教師でありたいです。

毎日楽しく過ごしています。子どもたちが「りな先生！」と呼んでくれたり、先生方と何気ない会話をしたりするのがうれしく、私の好きな時間となっています。最初の学校が松蔭小学校でよかった、と感じています。まだまだ分からないことが多く、共同事務室では会話についていけないこともありませんが、ベテラン揃いの先輩方の話は勉強になることばかりです。早く私も一人前になるよう日々勉強し、努力していきたいと思っています。



はじめまして！

川之石小学校

東 潤



今年度、新規採用教員として川之石小学校に赴任しました、東潤（ヒガシジュン）と申します。新規採用教員というのですが、神奈川県で十年間教員をしていました。神奈川県という横浜

市や川崎市などの都会をイメージされると思いますが、私が住んでいたのは、南足柄市という、神奈川県でも西部に位置する自然豊かな場所です。『金太郎』で有名な場所でもありません。箱根からも近く、旅行が好きな方はぜひ遊びに行ってみてください。勤務し始めてからは、神奈川県との違いがたくさんあり、戸惑うことばかりでした。右往左往している私に、たくさん先生方が優しく教えてくださったり、そっと助けてくださったりするので、とても頼もしく、うれしく思っています。職員室での先生方とのやり取りも楽しいです。まだまだ不慣れなことがたくさんあり、ご迷惑をおかけするかもしれません。先生方や子どもたちとのコミュニケーションを大切に、一日でも早く皆さんのお役に立てるようになりたいと思います。

新婚さんに

インタビュー

喜須来小学校

宇都宮美和

本校には、お二人の新婚さん、菊池之成先生と工藤彩先生がいらっしやいます。とても幸せそうなお二人。この幸せ気分を、会員の皆さんにもお裾分けです。

- ① 思い出のデートスポット
Y: 高知県の海岸沿いのドライブ。足摺岬に行くこと。
S: 大洲の花畑。
② プロポーズの言葉
Y: 「結婚してください。」
S: 内緒です。

結婚してよかったと思つこと

Y: 家に帰ってご飯があること。いろいろなと心配してくれること。

- S: たくさん「ありがとう。」と言ってもらえること。
④ 作ってもらって、おいしかった料理、または、得意料理。
Y: カレー・サラダ、そして、もちろん肉料理！
S: 喜んでもらえるのは、きんぴらごぼう・肉じゃが。
⑤ 記念日にすること
お二人とも、「おいしい料理を食べに行きます。」とのこと。
まだまだ聞きたいことがある方は、ぜひ喜須来小学校までお越しください。
お二人とも、末永くお幸せに！

会員の声

「正しく知る」

松柏中学校

安部 暁子

「先生！虫が出ました！」ここ数年急速に、は虫類や両生類に加えて、虫が出た際に呼ばれることが増えてきた。ハチやアブが現れたときはもちろん、チョウやコバエなどの毒性のない虫でも呼ばれることがある。社会科授業の新聞スピーチの際に、ヒアリの話題がよく取り上げられる。ヒアリの危険性や見分け方、巣を発見した際の対応などへの関心の高さが感じられた。ただ、更に

話を聞いてみると、「在来種のアリがヒアリを撃退するから大丈夫。」などの不確かな噂も耳にしているようである。ヒアリに関するネットニュースの一つに、「正しく怖がるために知っておくこと」という見出しがあった。虫に限らず、何事も「正しく知る」ということは、とても大切であると思う。そうでないと、誤解や根も葉もない噂が広まってしまい、悲しく辛い思いをする人々が出てくるかもしれない。そうならないためにも、子どもたちが「正しく知る」ことができるよう、私自身も日々研鑽を積んでいきたい。

星占術

保内中学校

寺岡 崇吏

「七赤金星」これが私の星である。今年は大殺界最後の年...。大ピンチなのか？ 保内中には細〇〇子氏、いや、細〇〇子を師と仰ぐM氏がいらっしやる。先日行われた一学期慰労会、M氏によって、全職員の運勢・性格・性癖までもが公表された。最も多いのが「天王星人」。職員約三分の一を占めている。論より証拠、言葉より行動という「天王星人」。今年度の保内中は、彼らを中心に動いているということだろうか。そして、もう一つ注目すべきは、「霊合星人」である。その特徴としては、①性格が入り交じり、とらえどころがない。②運命が複雑。天国から地獄へ、地獄で仏のような経験をする。③その世界で長い間活躍する...。などが挙げられるとのこと。実は、かなりレアで、すごい人たちがいるのだが、保内中には七人も「霊合星人」がいるのである。M氏曰く、「『霊合星人』がこんなにいる学校は、今までにない！」

統合初年度の保内中学校。ただ今、順調な船出&航海中である。きつと大殺界の私でも、この「霊合星人」たちに助けていただけるに違いない。ご自分の運勢が気になる方は、保内中学校、M氏までご連絡を。

「俳句を味わう」の授業に学ぶ

八代中学校

井上 恵美

六月中旬、講師・助教諭・養護助教諭等研修会が本校で行われ、記録係として、中学校部会の公開授業とその後の研究協議に参加した。

三年生の国語の授業は、既習の俳句の音読による前時の振り返り、「友達の俳句の良さを見つけよう」というめあての確認、良いと思う作品とその理由を班内で、次に学級で発表し、最後に投票で四点を選び、

俳句甲子園 in 愛宕中
森分 美幸
今年度初めて、三年生の俳句鑑賞の単元で「俳句甲子園」を取り入れた。私は普段、俳句を詠むわけではないので、国語科の先輩に



ら教えてもらい「俳句甲子園 in 愛宕中」を開催することができた。一回戦から決勝戦までの兼題をそれぞれ「百合・髪洗う・西日」とした。生徒は、「百合ってどんな花？」という

作者が名乗るといふ流れで進められた。毛筆で書かれた一句一句には、自然の情景や異性への思い、修学旅行や部活動の思い出など、様々な情景が詠まれていた。「夕焼けや思い出閉じるバスの中」の句から、修学旅行の帰りや総体の帰り、下校中など多様な場面を想像した意見が出され、イメージが広がった。「山眠る町も眠って僕も寝る」の句に対して、「山眠る」は冬の季語で、春は「山笑ふ」、夏は「山滴る」、秋は「山装ふ」と四季に応じた季語があるとの説明があったり、「弟と願いごとした雪だるま」の句に對

とところから、百合のイメージ、香り、咲いている場所と想像をふくらませて俳句を作り始めた。そして、チームの俳句に「その俳句はどんな情景を詠んだの?」「こっちの表現の方がいいんじゃない?」などと相談しながら、俳句を完成していった。

一回戦の第一試合、先鋒戦が緊張の中でスタート。どちらも中学生らしい素直な俳句であったが、判定は一〇対一。悔しそうな顔、うれしそうな顔があふれる。負けたチームへは審査員から「場面が目につかび、百合の香りがしてきて、僕はこの俳句が好きです。」という応援メッセージが送られた。対戦を重ねるうちに、質問も「どんな情景を詠んだものですか?」というものから、表現の適切さを問うものに成長していった。初戦、二回戦で敗退したチームは、「決勝まで行きたかった。」と口々に残念がっていた。二回戦を終えての生徒は、「俳句を作るのが楽しい。」「班で推敲し、作戦を練る時間が楽しかった。」と感想を発表した。実は、決勝戦は来週開催予定で、この原稿を書いている時点ではまだ行われていない。いったいどんな俳句が決勝戦の舞台に出てくるのか、そしてどんな意見交換がされるのか、楽しみである。



備えあれば憂いなし

川上小学校

菊池 理恵

この原稿を書こうと思ったそのとき、テレビでは、九州地方の豪雨による甚大な被害や東北で起こった地震が放送されていた。愛媛にも被害が及ぶかもしれない。そう思いながら、この本を手にした。「南海トラフ地震」という言葉は何度も耳にしたことがあ

るが、詳しくは知らなかった。しかし、都道府県別の被害額を見ると、愛媛県は全国で第五位。これは大変だと思った。

心に残る一冊の本

身近な「あれ」を極めた一冊
宮内小学校
宇都宮 静音

かわいい手書きの表紙をめくると、そこには驚きの世界が広がっていた。シャープペンシル・消しゴム・ノート……。数々の文房具のイラストが、鋭い解説とともにぎっしりと載っていた。その情報量にも驚いたが、これを小学六年生がまとめたということに衝撃を受けた。その名も、山本健太郎君。本の名前は、「文房具図鑑〜文房具のいい所から悪い所まで最強解説〜」

うちの学校自慢 わが職場

千丈小の学校自慢

千丈小学校

北川 充子

我が千丈小学校の自慢は「EBISUデー」。そう、その名のおり全職員が「えびす顔」で過ごす日……。ではなく、仕事を早く切り上げて、自分や家族のために時間を使おうという日である。これは、「プレミアムフライデー」に対抗した校長先生が名付け親の特別な日である。しかし、仕事の量が変わるわけではない。私は、「EBISUデー」とは、働き方を見直したり有効な時間の使い方を考えたりするきっかけをいただいたのかなと感じている。訂正する。この学校の本当の自慢は、「EBISUデー」そのものではなく、ワークライフバランスについて考えるきっかけをいただいた校長先生、そして、先を見据え有効な時間の使い方を実践しておられる先生方、つまり、「人」である。最後に、なぜ「EBISU」なのか? ないしょの話ですが、プレミアムモ〇ツに対抗できるものはこれしかありませんよ。

教師という仕事柄、文房具屋に立ち寄ることが多い。「赤ペンはこの会社」「細かい字を書くのはこのインクペン」というように、私なりにこだわりのもって文房具を使っている。しかし、この本との出会い、私の文房具人生を大きく動かした。この本を読んだ後、文房具屋に向かった。文房具を手にして、試し書きをしてみる。なるほど、健太郎君の言うとおりだ。健太郎君から学んだことは、何事もとことん極めること、すばらしさ。彼の約一年間の努力と文房具への愛がたっぷり詰まったこの本は、教師必携の一冊ではないだろうか。

楽しい「物作り」

白浜小学校

大空民加子

私の趣味は、「物作り」である。中でも、長く続けているものを紹介する。

一つ目は、石けん作りだ。

お気に入りには、「マルセイユ石けん」という種類のもの、主な材料は、オリブ油である。気分によって、香りやクレイ（泥）を入れて作る。かわいい型に入れて作り、贈り物にすることもある。



二つ目はパン作りだ。...

私の趣味

キラキラビーズに癒やされて

宮内小学校

浅野ゆかり

私の趣味って、と考えると、プリザーブドフラワー・ジグソーパズル・シフォンケーキ作り・ペン習字……。どれも長続きしたものはない。そんな私でも、一つだけ細々と続けて楽しんでいることがある。ビーズ手芸である。十五年ほど前、キラキラ光るビーズに魅せられたのがきっかけだった。ビーズの配色やデザインを考えているときが一番わくわくする。キラキラ光る

仲間内で「大空ベーカーリーの工場長」と言われるほど、はまっていた時期があった。ただ、調子に乗って食べると、太ってしまうのが玉に瑕である。

最後に、DIYについて。

十年ほど前、棚のないクロゼットに収納を作ったのがきっかけである。ホームセンターで、木材をカットしてもらったと便利でよいが、今年に入って、とうとうジグソーも買ってしまった。腕前は、大まかな性格が災いして、大したことなない。今、職員室の自分の机の下に、収納を作りたいと考えている。

「物作り」、これからもまだまだ増えそうである。

ビーズを並べていると、いらした気持ちもすうっとおさまってくる。完成した作品は、見て楽し、使って楽し、贈って楽し。しかし、このごろ目の調子が……。年齢を重ねるごとに、小さなビーズの穴が見えづらくなってきた。近々、手芸用の拡大鏡を買おうかな……。と考えている。



「神山のスーパースター」

神山小学校

磯崎香里

私が紹介する人は、菊池健教頭先生。

「超おもしろい」「優しい」「めりはりがある」「毎朝、正門の掃除をしてくれる」これは、体育と書道の時間に、教頭先生の授業を受けている四年生の子どもの声。子どもは、本当によく見ている。

そんな子どもたちからも好かれる教頭先生には、もう一つの姿がある。それは、「アスリートの姿」。教頭先生は、言わずと知れた陸上競

この人

藤堂浩伸校長先生を紹介します！

八代中学校

竹上広子

先日、ある生徒が、「八代中はお金持ちですよ。業者の人が、窓ガラスを磨いています。」と言うので、生徒玄關に行ってみました。すると、グレーの作業着に身を包んだ校長先生が、脚立に乗り、窓ガラスの清掃をしてくださっていたのです。職員一同、頭が下がる思いでした。

「校長室だより」には、毎回、生徒の良い面が細やかに温かく紹介されています。挨拶や掃除、傘の整頓の仕方な

技のアスリート。私が紹介するのかもしれないおもしろいのだが、短距離と走り幅跳びのスーパースターだ。最近では、愛媛マスターズで選手宣誓をされ、更に優勝もされた。

「今後も目指したい大会がある。しかし、ここ最近では、なかなかトレイニングも進まない。」私のインタビューにそう答えられた教頭先生は、冷静さの中にも輝きが見えた。

今も、緊張感に包まれた中、自分の記録に挑戦し続ける教頭先生。そんな教頭先生から、体いっぱい体育の楽しさを学べる子どもたちは幸せ者だ。今日も、プールサイドからは子どもたちと先生の生き生きとした声が響いてくる。

ど、毎日隅々まで見てくださっています。八中生は、紹介された生徒を二本として行動し、どんどん成長しています。

私たち職員には、特に、文書の書き方指導を丁寧にしてくださいます。言葉の使い方や文の作り方、構成等、公文書の書き方を、みんなで勉強し直している最中です。私は、訂正されたものは全てとじ、次に生かせるよう心がけています。生徒同様、学ぶ毎日です。

秋祭りではじける校長先生の姿は、とても同じ方とは思えません。そういうところも素敵なのです。

「校区の名所・旧跡」

校区を流れる用水路

治部井出

日土小学校 河野恵子

鹿島神社のかなめ石、ナギの木。ウラシヨウジ遺跡の謂れ。了月院での「ありがとう」のお話。今年の日土巡り遠足でも、ふるさと日土を知る活動が行われました。その中でも、特に子どもたちを驚かせ、ふるさと歴史を感じさせたのが「治部井出(じぶいで)」と呼ばれる水路でした。

取水口のある統敷地区から旧青石中の地下を通って、日土橋まで続くこの水路は、今から三百五十年ほど前、江戸時代に作られたものだそうです。当時、宇和島藩が奨励した新田開発に伴い、辺り一帯の農業用水として利用するた



めに作られました。この日土が、豊かな土地を表す「青石の地」と呼ばれたのも、この「治部井出」によって運ばれた豊かな水で潤っていたからではないでしょうか。

普段登下校で何気なく見ていた水路が、実は昔から人々の暮らしを支え、地域を豊かにしていた。この新しい発見に、日土つ子たちの故郷愛はますます深まったようでした。

消 息

喜須来小学校
工藤 彩 教諭(旧姓 尾下) 結婚
平成29年2月25日
八代中学校
井上 恵梨香 教諭
平成29年3月8日 女児ご出産
※ お慶び申し上げます。

編集後記

カラー印刷へと装いを新たに支部だよりを更に多くの方に読んでいただくために、今まで執筆されていなかった方を優先して原稿を書いていただくように、各校の編集部員さんにお願いをしました。そして、今回より、日々教育にご尽力いただいている市生活支援員さんや非常勤の先生方等にも配付することにしました。本支部だよりを通じて、各校の雰囲気や先生方の人柄などを垣間見ていただけたらたいへん有り難く思います。